

1 はじめに

本校では、学校教育目標「自ら考え、判断し、正しいことを進んで行う心身ともに健やかな子どもの育成」を達成するため、本年度の重点目標を「関わり合う活動を工夫・充実させ、児童の自己有用感を育てる」とした。本研究会の実践テーマである「望ましい集団活動」が「一人一人が互いに認め合える」集団と捉え、児童が互いに認め合い、好ましい人間関係を構築するための教育活動の充実を図った。また、そのような集団の中で、自ら考え、自己選択や自己決定できるような実践の場を工夫することで、本研究会の研究主題に迫ろうと考えた。

2 資料（実践事例）

（１） あいさつ運動

運営委員を中心に、毎朝あいさつ運動を行った。児童全員が元気なあいさつができるよう、給食の時間にあいさつを返してくれた人数や特に元気な声であいさつをした児童の名前を放送し発表した。また、あいさつの大切さを呼び掛けるために、各教室を諏訪小のキャラクター『うみぞうくん・うめかちゃん』が回って、どのようなあいさつが気持ちの良いあいさつになるのかクイズを交えながら確認した。



（２） 縦割り班活動

月に1回、ロング昼休みを使って縦割り班活動を行った。1つの班には、どの学級からも2人以上は入るようにし、6年生の班長・5年生の副班長を中心に、みんなで楽しめる室内ゲームや鬼ごっこなど様々な活動を考え、異学年交流を図っている。また、縦割りの奉仕活動も取り入れ、みんなで使うグラウンドや学校の花壇を綺麗にしようと、環境委員会と協力しながら奉仕活動にも取り組んだ。



（３） 募金活動や集会

運営委員が中心となって赤い羽根や緑の羽根の募金活動を行った。また、『1年生を迎える会』『いじめ0集会』『創立記念集会』など様々な集会を主体的に企画・運営し、自主的・実践的な態度が育くまれた。



3 成果と課題

挨拶を返してくれている人の数が減った現状を見て、運営委員の児童から何かできることはないかと課題を見つけ、話し合い、実践することができた。実践後に、挨拶を返してくれる人の数の変化を視覚的に捉えさせると、さらに達成感が味わえてよかったかなと思う。